

## 第4回 郡中200年祭実行委員会の概要報告

1. 開催日時 平成28年4月19日(火) 18時50分～20時45分

2. 開催場所 伊予市生涯研修センター さざなみ館

3. 出欠状況

実行委員 出席人数31名、欠席人数9名

アドバイザー 出席人数1名、欠席人数0名

オブザーバー 出席人数2名、欠席人数1名

事務局 出席人数4名、欠席人数0名

4. 第3回 郡中200年祭実行委員会 次第

1. 開会のあいさつ 郡中200年祭実行委員会 会長 一色 克仁

2. 新規委員の紹介

3. 資料の説明

4. 部会ごとのワークショップ

5. ワークショップ結果の報告と意見交換

6. 閉会

(以下 敬称略)

6. ワークショップの結果

### A部会 子供たちが町の歩みを学び合う企画と実行

出席アドバイザー：前田眞

出席委員：吉田京子、山本恵、奥野勝也、日野桂子、棟田隆治  
中村禎司、一色克仁、鶴岡正直

出席事務局：谷本照美

ワークショップの結果 発表者：前田眞

今までの話を整理しながら、具体化について話し合いをした。

- ・郡中最大のイベント夜市を活用する。子供たち(小・中・高生)に関わってもらい呼びかけをする。小学生は愛護班に関わってもらい。中学生は、ボランティア募集で関心のある子供が参加。高校生は、伊予農被服科の生徒に関わってもらいのが軸としてある。
- ・今回は、かすりがテーマだが、他のテーマの場合は、違う呼びかけ方ができたら良い。

来年の夜市にむけては、クイズラリー(スタンプラリー)

子供達作成のクイズで、子供達がブースを回って、クイズに答えてハンコを貰う  
そのクイズは、今後配布予定の、子供向け冊子を教材に議論を進める。

今年の夜市は、かすりをテーマに子供たちの関心を集める。

◎声掛けのためのチラシ作り ◎今後のスケジュールの整理 ◎かすりを集める

- ・かすりを中心に、色々な事を始めることを市民に知らせる。PRを含めて古布集めが  
できたら良い

- ・来良夢で、実際のかすりの織を見る体験ができると盛り上がる。子供たちが、かすりのことを体感できる。
- ・来年のクイズラリーにむけては、子供たちのことなので、子供たちのペースに合わせてじっくり勉強していける時間を取れば良いかなと話した。

## B部会 まちづくりの歩みのシンボルゾーン「港と五色浜」に親しむ企画と実行

出席オブザーバー： 小原明美

出席委員： 門田眞一、坪内寛、向井幹雄、宮内保雄、水口純子、  
日野鈴香、森和志、木曾信之

出席事務局： 石田照子

ワークショップの結果

発表者：小原明美

「まちづくりの歩みのシンボル港と五色浜」についての討議は大きく2つである。

- コースを楽しく、行きたくなる、歩きたくなるコースを作る。

そのための仕掛けとして実現できそうなことは？

### (1) テーマで分ける

- ・俳句などの記念碑のあるエリアをまとめて「文化・文学」テーマコース
- ・「五色浜界隈の夕日スポット」テーマコース
- ・「町並散策」コース
- ・「偉人をめぐる」コース

など、五色浜にちなんで5つゾーンにして、全部まわらなくても楽しめる、観光客もハードルが低い

### (2) 案内やマップを作る

- ・5つのコースを五色に分けて、色分けマップ・パンフレットを設置
- ・コース沿いに何か目印になる色分けフラッグなどを建てて誘導し、にぎわいも創出する（色別に「〇〇の路」というネーミング）
- ・スポットには案内板を設置し、立ち止まらせる工夫と郡中の歴史伝統を知ってもらう

### (3) にぎわいや憩いをプラス

- ・途中にカフェや休憩所を設ける
- ・アート系の旗、のぼりなどでおしゃれな感じを出す
- ・単なるコース名ではなく歩きたくなるネーミングをつける
- ・町家を拠点にする

### (4) 展示会場とコースを関連づける

- ・コースに設けた案内板には、関連の展示物会場（彩浜館など）を案内して、実物も鑑賞できるようにする
- ・せっかくのお宝を見ってもらう工夫を（写真・展示）

●港や五色浜を舞台に楽しむ。(怖いイメージの海岸を楽しく)

そのための仕掛けとして実現できそうなことは？

(1) イベントの実施

- ・トラックの簡易ステージ程度でできるコンサート (地元シンガーなど)
- ・ピヤガーデン (フラダンスを見ながら)、夏の夜空の下で開催
- ・クルーズは無理っぽいが、船遊び程度なら可能では？
- ・写生大会も復活させてはの案も出ましたが...

**C部会 雇用や暮らしを支える産業を学び合い育てる企画と実行**

出席委員：中尾均 (代理：武智)、徳田和敏、岡崎良三、一色喜代子、菊澤康、  
藤村泰雄 (代理：川口)、桐嶋正彦 (代理：坂本)、片岡直人、  
加納祥一、大谷基文、徳本研三

出席事務局：重松佳子

ワークショップの結果

発表者：加納祥一

「事業所訪問ツアーまたは、事業所訪問&まちめぐりツアー (仮称・案)」実施についての話し合いをした。

- ・郡中の産業振興の、歴史をたどり今を知る企業訪問に、まちなみ散策を取り入れたツアーを実施してはどうか
- ・ヤマキ、マルトモ、オカベ等の主要な企業の工場見学や、かつお削り体験なら可能。
- ・実施にあたっては、時間配分、天候などが課題である。
- ・まちめぐりのなかで、地元の商店にも立ち寄り、知ってもらう。
- ・ツアーだけにとどまらず、
  - ①伊予鉄道の協力を得て、電車好きな子どもが喜ぶ企画 (運転体験等) や、会社の沿革・古い電車の写真のパネル展開催
  - ②伊予銀行の店内での写真展 (郡中の自然、風景) 開催などを行うことができるか、並行して考えていく。

↓

伊予市郡中の産業について、まちめぐりを組み合わせながら、伊予市内外の人々に PR していきたい。5月以降、作業部会のなかで具体的に進めていく予定である。

## D部会 お宝発見・再発見、その他の企画と実行

出席オブザーバー：稲田里香

出席委員：渡辺大記、若松一心、武智忠広、樋口瑞記

出席事務局：安田絹代

ワークショップの結果 発表者：稲田里香

D班は前回から柱のようなものが出ている。

- ・商店街の店舗にのれんをつけていく取組。
- ・ナイトウォークイベント

この二つの取組について具体的に話し合いを進めた。

### ●ナイトウォークイベント

1月にプレイベントが始まる頃から2ヶ月に1回ずつ始めて、最終は郡中のスタートで大洲藩まで子供たちと一緒に歩くという案である。

その間に、三津に行ったり、道後、双海、中山に行ったりを重ねながら最後、大洲まで行く計画を立てている。参加者の人数とか、夜の実施ではなくこの回は昼の実施がいいのでは、というような具体的なことを話しあった。

200年祭というくくりの中で、全体にストーリーを持たせながら参加してもらえるイベントにしていくために工夫が必要だと思うのでその辺りを精査していきたい。

### ●商店街のれんプロジェクト（通りに華やかさや統一感がでる）

- ・のれんの一部に伊予絁を使用したいので、伊予かすりの寄付の募集をする。

- ・まずは、一つ作って飾る。

例えば、いっぷく亭、来良夢など

目印になるようなもの。

将来的に自分の店もやりたいと思えるクオリティが必要である。

200年祭以降もこの取組を続けていけるよう、一つの目標としていきたい

7. ワークショップのまとめ アドバイザー 愛媛大学社会連携推進機構 教授 前田 眞

## シビックプライドを取り戻そう！！

これから具体的な準備に進むにあたって、困難な事が出てきて、なぜ200年祭をするのか？わからなくなる時があると思います。

そんな時「シビックプライド」という言葉を思い出してください。「シビックプライド」

とは、その地域で暮らす人それぞれが、地域に対して持つ愛着や誇りの事です。

200年祭を通して、郡中の人々のシビックプライドがより具体的なカタチで見える化されることを望んでいます。

当日の様子を写真で紹介します

A 部会 ワークショップのようす



B 部会 ワークショップのようす



C 部会 ワークショップのようす



D 部会 ワークショップのようす

